## 門前仲町

## 探検隊報告

## 木場の角乗り



この号が発行される頃はすでに爽やかな秋風の季節となっていることでしょうが、今年の夏は全国的な猛暑に見舞われ、JSTTのあるここ東京・江東区も連日 35  $\mathbb{C}$  以上の猛暑日が 10 日余りも続きうんざりの毎日でした。この時期の原稿準備、話題だけでも涼を呼ぶものにしたくて、今回は江戸の文化を残す「木場の角乗り」について紹介します。事務所から歩いて約5分の都立木場公園で、今年も 10 月 17 日の日曜日、「江東区民祭り」のメインイベントとして開催されます。是非、一度見に行かれることをお勧めします。結構、鳥肌モノですよ。

JSTTは富岡(富岡八幡宮に由来した地名)にありますが、事務所の下を流れる大横川を隔てた隣町は木場になります。木場はその名のとおり、江戸時代から街造りに使われる木材を一手に扱う700軒余の材木問屋と100余の製材業者が軒を並べ、周辺には倉庫や貯木場が整備された一大専業地域でした。さらに、敗戦により焼け野原となった東京の復興に使われた材木も、その殆どが木場の職人達により国内外から集められ、この地を通って復興の地に運ばれて行き街は一段と活況を呈したようです。

近年,東京湾の埋め立てが進み,今までの貯木場としての機能が新木場へ移転したため,1992年に防災都市計画の一環として,貯木場の跡地に東京都現代美術館やテニスコート,バーベキュー広場を配置した都立の木場公園(総面積24.2ha)が整備されました。

地元の人達は、当地が木場(貯木場)の故地であることを後世に残すべく、公園入口広場に年一回の木場の角乗りを開催するためだけの目的で、イベント池(プール)を建設。このプールで、毎年10月に江東区民祭りのメインイベントとして開催される「木場の角乗り(東京都指定無形民俗文化財)」を見ることができます。

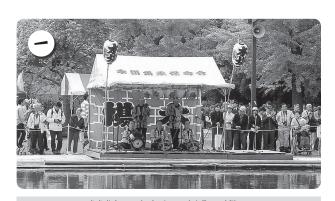
木場の角乗りは、江戸時代に木場の筏師 (川並) が、水辺に 浮かべた材木を鳶口ひとつで乗りこなして筏に組む仕事の余技 からはじまりこれに数々の技を加えて芸能として発達したようです。

それでは、昨年行われた角乗りを、速いテンポの葛西囃子を バックに、口上師の語りとともに行われる伝統業の数々を篤と ご覧あれ。





「角乗り」の技には大きく分けて十二種類前後あるが、最初に行われるのは基本型ともいえる「地乗り」。タメ竿といわれる竹竿をもって素足で角材に乗り、竿でバランスを取りながら角材を回転させる。それが終ると角材の七分三分のところで逆立ちをする。口上は「尾張名古屋は金の鯱」。角乗りは、筏師・囃子方・口上師の呼吸がピタッと合うことが大事。



葛西囃子は、犬太鼓1,小太鼓2,篠笛1,鉦1,の5人一組で編成される。雛祭りの唄ではないが、「五人囃子の笛太鼓」である。中でも鉦は他の4人の演奏を助けるもので一番難しいという。



「地乗り」に次いで行われるのが「相乗り」で、二人一組で一本の角材に乗り、正面に向かって左右二組で行う。どちらか上手な人がリードするようになるが、二人の息がぴったり合わないと角材がうまく回転しない。それが終ると二組4人がそろって逆立ちをするが、初めと終りがそろうかどうかが腕の見せ所。



「駒下駄乗り」は駒下駄をはいて角材に乗る曲芸。下駄の歯がうまく角材にかからないと回転しない。「駒下駄乗り」がうまくこなせると「高下駄乗り」に移る。高下駄乗りは下駄の歯が高いだけに、それだけ難しくなる。



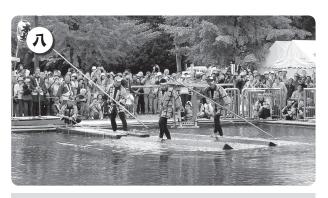
「梯子乗り」は角乗の中でも呼びものの一つ。地上で行われる鳶職の「梯子乗り」は、四方八方から鳶口で安定させるが、角乗は口字形の土台が角材と梯子をつなぎ、わずかにタメ竿が土台の横から水面に浮かんでいるだけである。これを安定させるのは、角材の両端に乗っている助演者が手している二本のタメ竿である。



「三宝乗り」は、角材の上に三方を乗せ、その上に乗る。三方は不正形に積み重ねてあり、しかも足駄をはいて乗る。タメ竿を持って立ったり、片足をあげて右手に扇子をひらく「義経八艘飛び」、扇子を口にくわえてタメ竿を三方の穴にさして逆立ちするのが「鶴の餌ひろい」。



「川蝉乗り」は、子供を肩車して角材を回す曲芸。子供を肩に乗せているところが鳥の川蝉に似ているため、この名がついたといわれる。演技のころあいをみて肩の子供はわざと水中に落ち、ふところに忍ばせておいたひよっとこの面をかぶって出てくる。このところは「花駕籠(戻り駕籠)乗り」と同じ。角材に引き上げられた子供は、そこで馬鹿踊りをやる。近年はこれができる子供がいないので、水に落ちず、形だけのものになっている。



「花駕籠乗り」は、花で飾った駕籠に子供を乗せ、籠を担ぎながら角材を回す。二人の間は駕籠で繋がっており、相乗りとは違った息が必要。本来ならころあいをみて駕籠に乗っている子供がわざと水中に落ちお面をかぶって出てくる。空の駕籠は、先方と後方が反対になり、「戻り駕籠」としゃれこむ。



最後に足駄をぬぎ、三方を蹴飛ばして角材の上に飛び下りる 難易度の高い「獅子の子落とし」で締める

No-Dig Today No.73 (2010.10)